



# 医学研究科 助教 齊藤 美加先生

## Q1.取り組んでいる研究・活動についての紹介

SDGsの目標3ターゲット3.3には、2030年までにマラリアなど世界3大感染症や、デング熱など顧みられない感染症を根絶することが掲げられています。特にマラリアは貧困の原因であり、結果であるため、SDGsのほとんどの目標と関係があります。また、デング熱はコロナ後に予測される人と物の行き来の急激な増加により、日本において流入と流行に最も警戒すべき感染症の一つです。

新型コロナウイルス感染症の流行を受けて、現在は、八重山の感染症マラリアの歴史から、今につながる教訓を得るため、主に科学と科学者の視点から歴史を紐解いています。また、コロナ後には人も物も予算も限られることが予想されるため、市民が科学および情報リテラシーを向上させ、科学研究に参加し、自分たちで地域科学を作り出し、問題解決が可能となるシチズンサイエンスの実践を行なっています。市民が楽しみながら蚊媒介性感染症のモニタリングと対策を行うことにより、安心安全な地域を作り出すという、夢のようなプロジェクトを真面目に行なっています。

## Q2.研究の道に進んだきっかけ

①大学は北海道大学獣医学部 動物のお医者さん（ちょっと古い？）のあの時代、アフリカのお面をつけた漆原教授のモデルになったH先生は、部屋に飾っていた世界地図を指さし、ごらん、世界は広いんだよー と、いいながら、いろいろなことを教えてくださった。ぶっ飛んでいて、壁を平気でぶち破る先生たちが、私たちのロールモデルでした。

②マラリアで苦しむアフリカの国のことを書いた小さな記事を読みました。媒介する蚊を殺す農薬を水たまりに撒くと、水源が汚染され、子、孫の代の子供達が住み続けられなくなるかもしれない。いま、マラリアに苦しむ人を救うか、環境を残し、子孫の未来を守るかのジレンマに苦しみ、選択をせまられているという記事でした。その時以来、環境か、病気かの線引きを自分がするときによい線を書くのか、が私のテーマになりました。時を重ね、線は直線ではなく、線でもなく、厚みがあって、輪郭がないものになってきました。

## Q3.研究者を目指す若者に対して、「これだけはしておいた方がいい」ということ

研究者を目指すうえで、これから、ますます生きていくのがしんどくなったり、生き延びるので精一杯になる時が増えてくると思います。

- ①色々な人と関わること、関わってみること、できればお友達になっちゃうこと。
  - ②自分がしんどくても楽しいと思えること、感覚を研ぎ澄ますこと。
- 他者と共存している以上、大変なことはいっぱいあるけれど、しんどいとき、他人と笑うだけで、乗り越えられたりします。

特に、女性研究者を目指す人たちへ、上司はできれば選んでください。できれば、うまくやっていくスキルを身につけるに越したことはありませんが、自分を殺してまでやるべき研究はないので、逃げてください。安心安全なところに一時身を置いて、それから戦ってください。女性研究者の置かれた立場はまだ弱いのです。構造的な問題は根が深いから構造的なので、まずは自分を守ってください。

## Q4.学生や研究者志望者におすすめの図書・雑誌

- ①『ミヒャエルエンデ 「モモ」』
- ②『エーリッヒ・ショイルマン「パパラギはじめて文明を見た南海の酋長ツイアビの演説集」』
- ③『まどみちお童謡集「地球の用事」』